掲示板

2020年度の新卒採用について

2020年度の新卒採用数について，315人としました

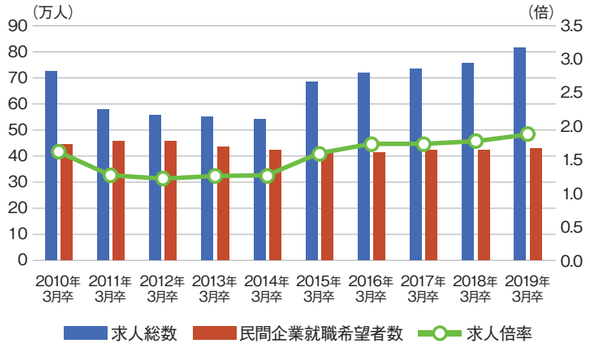
当社は，2020年4月に一般送配電事業を分社化し，発電事業および小売電気事業等を運営する「事業持株会社（東北電力株式会社）」の下に，「送配電会社（東北電力ネットワーク株式会社）」を設置することとしておりますが，2020年度の新卒採用は当社が一括して採用選考を実施し，採用内定後に，本人の希望も踏まえた上で，入社先（配属先）を決定することとしています。

●2020年度採用計画数（2社合計）　（単位:人）

	事務	技術	合計
大学･大学院	75	90	165
高専･高校	25	125	150
合計	100	215	315

※高専には，技術系の「短大･専門学校」を含む

●求人総数および民間企業就職希望者数･求人倍率の推移



出典:「大卒求人倍率調査（2019年卒）」リクルートワークス研究所

人手不足を背景に，近年，大卒の求人倍率は上昇しており，学生優位の「売り手市場」が続いていることから，企業の間では優秀な人材の獲得競争が過熱しています。
採用活動の関係者の皆さまには，より一層のご理解とご協力をよろしくお願いします。

働き方改革掲示板 Vol.1

今月からの連載企画『働き方改革掲示板』。今後，取り組み事例紹介やさまざまなテーマで社員の本音に迫ります！ お楽しみに!!

ビジネスサポート本部（以下:BS本部）では，**社員が山本本部長に業務削減･効率化**のほか，スピーディーな意思決定やコミュニケーションの活性化などの**組織ワークスタイルの刷新**について**直接提言!!** 本部のスローガンは「**BSスタイル～B+3S～**※」に決定!!

※ B:Break／3S:Simple, Speed, Smart

BS本部では，本部長のリーダーシップの下，これまでにない大胆な手法で働き方改革実現への取り組みを推進中。自分の提言が採用されれば，やる気･働きがいもアップしますよね。目指せ! イキイキ職場!!



つづきは働き方改革 H.A.N.D.S.サイトで

変えた! 止めた! 今月の小ワザ紹介

まだ棚判押してるの!?
「簡易ワークフロー」活用で効率的な起案を

Waterless Printing Naturally
VEGETABLE OIL INK
この印刷物は，環境にやさしい「水なし印刷」「植物油インキ」を使用しています。

BRIDGE 2019.3 Vol.704

東北電力社誌［ブリッジ］

BRIDGE

3　Vol.704　March 2019

CONTENTS

01 東日本大震災から8年 原田社長メッセージ
02 東北電力ネットワーク株式会社設立を決定
03 Topics 原子力のあり方に関する有識者会議を開催
05 Topics 経営層を対象としたブランドトップセミナーを開催 ～「東急グループのブランドマネジメント」から学ぶ～
06 私の「より、そう、ちから。」インタビュー 東通原子力発電所長 篇
07 Topics 原子力に関するコミュニケーション ～再稼働に向けたこれからの対応方法を学ぶ～
09 【特集】東通原子力発電所再稼働に向けて ～「震源として考慮する活断層」の評価に関する補足調査を実施～
11 お客さまにより沿う エグゼムズ（exEMS）徹底解剖! ～当社独自のエネルギーマネジメントシステムに迫る～
13 Topics 一部業務のアウトソーシング ～2020年4月の分社化を見据えて～
14 Topics 新潟県と包括連携協定を締結 ～「住んでよし，訪れてよしの新潟県」の実現に向けた取り組みを展開～
15 1/東北電力「むつ電力センター配電課」
17 Topics「緑のカーテン運動2019」実施のお知らせ
18 Monthly Flash News
22 退職者の方々
24 掲示板･働き方改革掲示板



東日本大震災から8年 原田社長メッセージ

特集 **東通原子力発電所再稼働に向けて**
～「震源として考慮する活断層」の評価に関する補足調査を実施～

発行所／東北電力株式会社広報･地域交流部　発行人／山形 安生　印刷／今野印刷株式会社　平成三十一年三月二十日発行

東日本大震災から8年

原田社長メッセージ

3月11日で東日本大震災の発災から丸8年を迎えるに当たり，原田社長は，東日本大震災で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに，これまでの8年間を振り返り，引き続き被災地の地元電力会社として，復興への貢献に努める必要がある。また，地域の復興や発展のために，当社にできることがないかを常に考えながら事業を進めていく必要があるとした上で，復興を支える担い手として，社員一人ひとりに考えてほしいこと，お願いしたいことなどについて次のようにメッセージを発信しました。

1. 東日本大震災への対応の経験や教訓を次世代へ継承してもらいたい

東日本大震災を経験した私たちだからこそ，果たせる役割や果たさなくてはならない責務があると思います。

東日本大震災から8年が経ち，当社においても，震災後に入社した若い社員の皆さんが年々多くなる一方で，震災経験者が減ってきています。また，1年後に分社化を控え，自然災害が多発し，激甚化する傾向にある今，震災経験を風化させず，伝承し，常に災害対応を第一義に考え，一体感を持って「災害対応力」の維持・向上に努めていかなければなりません。

あのとき私たちは何を経験したのか，どんな苦労があって，何を反省したのか。当時の出来事を記録するため当社がまとめた「東日本大震災復旧記録※1」や，「東日本大震災からの復旧に係る映像教材（DVD）※2」などを活用しながら，その貴重な経験や記憶を，職場や部門において経験談として次世代へ継承し，今後も発生しうる大災害への備えとして，会社組織の中にしっかり根付くよう，努めていただきたいと思います。

2. 地域社会の一員として，地域の復興につながる活動をしてもらいたい

東日本大震災により被災した電力設備の復旧を進めるために，当社は本当に多くの関係者の方々，地域の皆さまのご協力をいただきました。ご自身が被災され，厳しい状況に置かれているのにもかかわらず，地域の方々に，当社が置かれた状況や考えについて，ご理解，ご協力をいただき，電気料金の値上げや節電などを通じて，われわれは助けていただいたということを決して忘れないでいただきたいと思います。





▲昨年6月には，福島県にある大熊変電所が運転を再開。多くの方々のご協力を得て，東日本大震災以降，休止していた変電所の全てが運転再開を果たした

皆さんは，当社社員として，また，地域社会の一員として，地域の復興のために，これまでどのような活動をしてこられたでしょうか。来年の今ごろ，一年間を振り返った際，自分の行動がわずかでも「地域の復興のためになった」と思えるよう，日ごろから日常業務を遂行していく中においても，地域社会の生活者の一人としても，努力してもらいたいと思います。

そうした姿勢と行動が，お客さまや地域の皆さまから，「東北電力なら信頼できる」，「東北電力は地域の一員として欠かせない存在だ」と言っていただけることにつながっていくはずです。皆さんには，このことを胸に刻み，地域の皆さまに寄り添って，一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。



平成31年 3月11日
取締役社長
社長執行役員
原田　宏哉

※1 総務部（防災・危機管理）のポータルサイトからご覧ください
※2 社内ビデオ放送（アクトビラ）により「東日本大震災からの復旧に係る映像教材」（2018年3月人財部・ネットワーク人財部製作／約50分）から2019年3月11日（月）～6月28日（金）の期間内にご覧ください

東北電力ネットワーク株式会社 設立を決定



法的分離に伴う一般送配電事業の分社化に向けた分割準備会社

当社は，2月の定例社長記者会見において，2020年4月に予定されている法的分離に伴う一般送配電事業の分社化に向けた分割準備会社の設立について公表しました。

これらの概要を紹介します。

※分社化の方向性については，BRIDGE 2018年10月号をご覧ください

商標のデザインについて

商標

より、そう、ちから。
東北電力ネットワーク

※今後，事業所建物看板，社有車両および従業員証，社員用被服なども切り替えることとなるが，詳細については検討中

送配電カンパニーの社員から「送配電会社のあるべき姿」を募集したところ，「地域に寄り添い，地域の皆さまの安全・安心な暮らしを支える会社であるべき」という声が数多く寄せられたことから，東北地域の「T」とネットワークの「N」が，互いに寄り添い支え合うデザインとしました。

東北電力ネットワーク株式会社（分割準備会社）の概要

商号	東北電力ネットワーク株式会社 （英文:Tohoku Electric Power Network Company,Incorporated）
所在地	宮城県仙台市青葉区本町一丁目7番1号
代表者の役職・氏名	取締役社長　二階堂　宏樹
事業内容	一般送配電事業，離島における発電事業　等
資本金	5百万円
設立年月日	2019年4月1日
株主構成	東北電力株式会社　100%



なぜ，分割準備会社を設立するの？

分社化に向けた準備を円滑に進めるために設立するんだ。
2020年4月の事業開始までに必要な許認可等や契約の承継手続きをしっかり行っていく必要があるね！



【分社化のスケジュール】

2019年4月1日	分割準備会社設立
2019年4月	吸収分割契約締結※
2019年6月	吸収分割契約承認（株主総会）
2020年4月1日	吸収分割の効力発生日（分社化）

※当社と分割準備会社の間で締結

Topics
原子力部

原子力のあり方に関する有識者会議を開催

3月6日，当社は，第9回「原子力のあり方に関する有識者会議」を開催しました。

本会議は，原子力全般にわたる課題に関して，社外の有識者の方々から幅広くご意見・ご助言をいただくことを目的に，2011年10月に設置したものです。

今回は，「技術力の維持・向上に向けた取り組み」をテーマに意見交換を行うとともに，委員の方々から貴重なご意見・ご助言をいただいていますので，その概要についてご紹介します。

会議の出席者

委員の皆さま（五十音順）



浅利 靖 氏
北里大学医学部
救命救急医学主任教授



新野 良子 氏
㈱新野屋
専務取締役



座 長
北村 正晴 氏
東北大学
名誉教授

高橋 正典 氏（㈱高政代表取締役会長／女川町商工会会長）ならびに橋爪 秀利 氏（東北大学大学院工学研究科教授）は所用のためご欠席

◀会議では，北村正晴氏に座長を務めていただいた



谷口 武俊 氏
東京大学政策ビジョン
研究センター教授



中村 葉志生 氏
㈱ハリーアンドカンパニー
代表取締役

当 社

原田 宏哉	社長	坂本 光弘	副社長
岡信 愼一	副社長	田苗 博	副社長
増子 次郎	副社長		
長谷川 登	取締役 常務執行役員		
加藤 功	常務執行役員	ほか	

当社出席者による発言の様子



会議の開催に先立ちあいさつした原田社長は，原子力発電所を安全に運転していくための技術力の維持・向上に向けた取り組みについて，委員の皆さまへ幅広い視点からご意見やご助言を求めた

▲増子副社長



▲加藤常務執行役員



▲金澤原子力部長



▲若林女川原子力発電所長



▲鴇田東通原子力発電所長

第1部

女川2号機および東通1号機における新規制基準への適合に向けた審査の状況や，両発電所における安全対策工事の状況のほか，女川1号機の廃止に係る今後の予定などについて説明しました。また，発電所を安全に運転していくため，原子力防災訓練やさまざまな研修などを通じて，技術力の維持・向上に努めていることについても説明しました。



▶ 説明者：青木 宏昭 原子力部部長

委員の皆さまに紹介した内容（一部）

「原子力防災訓練」を通じた技術力の維持・向上



設備面の強化だけではなく，強化した設備を扱う社員のスキル向上にも注力。複数の事象が立て続けに発生する厳しい状況を想定した訓練を繰り返し実施している

「女川・東通の相互観察」を通じた技術力の維持・向上



重大事故時における対応力の向上を目的に，女川・東通の運転員同士による相互観察を実施し，それぞれの強み・弱みを把握するとともに，改善に向けた取り組みを行っている

「シミュレーター訓練」を通じた技術力の維持・向上



2018年度下期からは，新たに重大事故等対処設備※を反映したシミュレーターによる訓練を開始している

※新規制基準への適合に必要な設備であり，炉心損傷や放射性物質の大量放出に至る可能性のある事故などに対処するもの

第2部

原子力部の教育訓練担当者から，技術力の維持・向上に向けたより具体的な取り組みや，今後の予定などを説明しました。その後，委員の皆さまと当社の出席者が活発な意見交換を行いました。



▶ 説明者：原子力部（原子力業務） 伊藤 広恵 副長（教育訓練担当）

出席委員の方々の主なご発言

企業で求められる人材は，一般的に「T字型」に例えられることがある。縦棒は知識の深さを表現しており，その点についてはしっかりと対応がなされている印象を受けた。横棒は経験から得られる知識の幅を表現しているが，例えば，発電所が稼働していないからこそ経験できることとして，他部門や協力企業，地域の皆さまとの相互交流などで視野を広げていく取り組みも重要である。

技術継承を図っていくためには，知識・技術力を整理するだけではなく，さまざまな経験値や組織風土も踏まえることが重要。

発電所の現場における技術力だけではなく，例えば地域住民との対話活動において，技術系の社員自身がしっかり説明することができるという技術力（コミュニケーション力）も重要であり，その重要性もしっかり認識してほしい。

原子力防災に関する社会的関心は高く，有事の際への備えについて，各組織内ではしっかり対応できていると思うが，組織間の連携に関してコミュニケーション不足がないかしっかり対応していただきたい。

若年層が，発電所の起動・運転に関わる経験がないことをネガティブに受け止めないような工夫が必要。発電所の停止期間中における取り組みは，再稼働に向けた一歩になると前向きに受け止めてもらうことが必要。

関連企業における技術力の維持・向上に向けた取り組みについて，元請企業はある程度対応していると思うが，その下請企業も含めて，しっかりと目配りをする必要がある。

技術継承における社員OBの活用は非常に良好な事例であり，さらなる活用に取り組んでいただきたい。

当社は，今回いただいたご意見・ご助言の内容を踏まえ，技術力の維持・向上に向けた取り組みのさらなる充実・強化を図っていくこととしています。

Topics
「より、そう、ちから。」プロジェクト事務局

経営層を対象としたブランドトップセミナーを開催
～「東急グループのブランドマネジメント」から学ぶ～



講師／富田 秀樹 氏
東京急行電鉄株式会社
社長室 広報部 統括部長

東京急行電鉄株式会社
・1922年設立
・東急グループとして交通事業，都市開発，生活サービス事業などを展開
・当社とは，東急パワーサプライへの出資・域外販売において協業

当社は，「より、そう、ちから。」をコーポレートスローガンに掲げて，全社大で活動を展開し，「より、そう、ちから。」の取り組みを推進しています。

経営層がリーダーシップを発揮し，今後も全社一丸となって「より、そう、ちから。」の取り組みを推進していくために，首都圏で当社と協業し，長年にわたり強固なブランド力を維持している東京急行電鉄さまを講師としてお招きし，当社および企業グループの経営層を対象にブランドトップセミナーを開催しました。

当社役員を中心に，活発な意見交換が行われましたので，本セミナーの内容について紹介します。

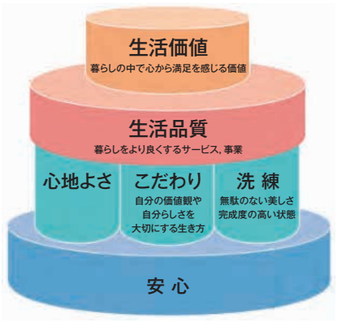
東急グループのブランドマネジメント

1990年代以降，「自立と共創」の経営理念を掲げ，企業グループの再編に取り組む中，「東急」の名の下，企業グループを集結させるブランドマネジメントという考え方を経営に取り入れました。

ブランドマネジメントとは，ブランド価値を最大化することにより企業価値の最大化を図るというものです。

その中で，安心を基盤に，生活品質・生活価値を付加し，お客さまへ提供することを東急ブランドのあるべき姿として全企業グループに対し明確に示しました。

つまり，安心・安全がお客さまから信頼を得ることにつながり，お客さまにとって期待以上のサービスを提供することがお客さまから評価を得ることにつながるということです。



▲明確化した東急ブランドのあるべき姿

現在の取り組み

東急ブランドの価値は，社員ひとりひとりの行動によって創られています。

社員が東急グループの一員であることに誇りを持てるよう，重点プロジェクト（渋谷地区の開発等）を社会に発信し，家族・お客さま・報道機関などから注目される環境をつくったり，会長・社長自らも参加する清掃や駅伝大会をとおして，グループの一体感を図る取り組みを進めています。



▲企業グループが一体となり開催した「スポGOMI」
会長自ら参加し，渋谷の街を清掃しながら，グループ社員間の交流を深め，一体感を育んだ

「より、そう、ちから。」プロジェクト事務局より



当社役員をはじめ経営層との意見交換の場では，当社より，「安心・安全に対する思いに共感した」，「ブランドマネジメントの仕組みを詳しく教えてほしい」，「最近の傾向として重点プロジェクトに予算を活用している理由は何か」などの発言があり，東急電鉄さまとブランドを活用した経営について情報共有しました。

本セミナーにおいて，社員ひとりひとりの行動の積み重ねが東北電力ブランドをつくっていることの示唆を得られたことから，経営層を含め，全社・企業グループ一丸となって「より、そう、ちから。」の取り組みを引き続き推進していきます。

◀質問をする岡信副社長

私の「より、そう、ちから。」インタビュー

当社は，コーポレートスローガン「より、そう、ちから。」の実現に向けて，全社で一丸となった取り組みを進めています。このコーナーでは，幹部社員自らの「より、そう、ちから。宣言」や，宣言に込められた思いなどについて紹介していきます。
今回は鴇田東通原子力発電所長にお話を伺いました。

鴇田東通原子力発電所長の
「より、そう、ちから。宣言」



鴇田 真孝
東通原子力発電所長

私の「より、そう、ちから。宣言」は，「『真』『誠』『信』－いまここ－」です。

東日本大震災以降，東通原子力発電所の長期稼働停止は，8年を経過しました。再稼働に当たっては，安全確保を前提に，地域社会との信頼関係を構築していくことが重要です。

この地は，昭和40年に誘致の要請を受けてから，半世紀が経過していますが，地域社会からの信頼関係は今もしっかり維持されています。この信頼関係をより長く，より深くしていくためには，私たち東通原子力発電所員ひとりひとりが「真摯」に取り組み，「誠意」を尽くして，地域社会の「信頼」に応えていくことに尽きると思います。この3つの「まこと」をいつも心に置いておくことが必要です。

「－いまここ－」には，次の職場では頑張るとか，前の職場で頑張れたではなく，東通原子力発電所の従業員として，自信と誇りを持ち，地域社会の一員として感謝の気持ちを忘れずに，「いまここを全力でやっていく」という強い思いを込めています。

私は，現場を預かる身として，発電所員ひとりひとりが3つの意味を込めた「現場力」を発揮してほしいと期待しています。一つ目は「技術力」です。発電所の維持・管理はひとりひとりの技術力があってこそ成り立ちます。二つ目は，原子力を扱う発電所員として「使命感」を持つことです。最後に「チームワーク」です。一人で実行していくとどうしてもヒューマンエラーなどの可能性があります。失敗を防止するためにいかにチームとして，気づいて，修正していくか，最終的には，チームエラーをゼロにするということが大切です。

これらの現場力を発揮するため，足下を固め，地元の方々との信頼関係をより盤石なものにしていきたいと思います。



東通原子力発電所の「より、そう、ちから。」の実現に向けた取り組みについて

発電所では，「オール東通」の下，「より、そう、ちから。」の実現に向けて取り組んでいます。オールには，発電所員約260人中，半分の人がやればいいとか，少しくらいやらなくてもいいではなく，ひとりひとりが「より、そう、ちから。」の実現に向けて全員が全力で取り組むという意味が込められています。

発電所には，多くの協力会社の方々もいらっしゃいます。協力会社の方々とも一体感を持ち，地域社会への感謝の思いを抱きながら，「明るく・楽しく・元気よく（原子力）」，私自身も取り組んでいきたいと思います。

東通原子力発電所としての取り組み


ひがしどおり来（か）さまいフェスタ2018で踊るよさこい鳴子踊り愛好会「風舞翔吹（かさまいしょうぶ）」

地域貢献策の着実な実施
再稼働が遅れていることにより，東通村の各方面に影響を及ぼしていることを重く受け止め，2016年度より，所長を座長とした「地域貢献策検討プロジェクトチーム」を展開しています。全所体制で地域行事への参加，地域貢献策の実現に取り組んでおり，各室課が自らできることを考えるなど，主体的に実践しています



「より、そう、ちから。」所内統一スローガンの唱和
「伝えよう感謝を 深めよう信頼を ヨシ！」という発電所内統一スローガンを毎月第3水曜日の安全朝礼にて唱和を行っています。唱和後には，各室課管理職が自課で行っている地域貢献策の概要と進捗状況などを紹介します

Topics
広報･地域交流部

原子力に関するコミュニケーション
～再稼働に向けたこれからの対応方法を学ぶ～

2月12日，女川原子力発電所2号機（以下:女川2号機）再稼働の理解活動を担う宮城県内事業所（本店，支店，営業所，女川原子力発電所）の社員を対象に，原子力に関するコミュニケーション研修を開催しました。

今後，女川2号機の新規制基準適合性審査が進むにつれて，原子力に対しさまざまな意見を持つ方々と対話を行う機会が増えると予想されることから，今般の研修では，原子力に関するコミュニケーションの基本的手法に加え，厳しい声にも対応できる心構えや対応方法についても学びました。

研修の概要を紹介しますので，皆さんも対話のときの参考にしてください。



講　師

関根 健夫 氏
（株）アイベックビジネス教育研究所 代表取締役

電力会社，民間企業，全国各県の自治体で，クレーム対応，リスクコミュニケーションに関する講師を務める

コミュニケーションの技法

コミュニケーションにおいて「話が成立する」ためには，相手が「聴いている」ことが最低限の条件です。聞き手がこちらの話をどのように受け止めているか，確認しながら進める心配りが大切です。なぜなら，聞き手は，こちらの話している内容や意図をそのとおりに受け止めるとは限らないからです。

良いコミュニケーションの進め方



1 受け取る
- まずは相手の話を徹底的に聴く

2 判断する
- 相手の意見や反論に対し“逆質問”する
- 5W2H（いつ，どこで，誰が，何を，なぜ，どのように，どのくらい）で主張の背景にある事実を確認し，気持ちをくみ取る

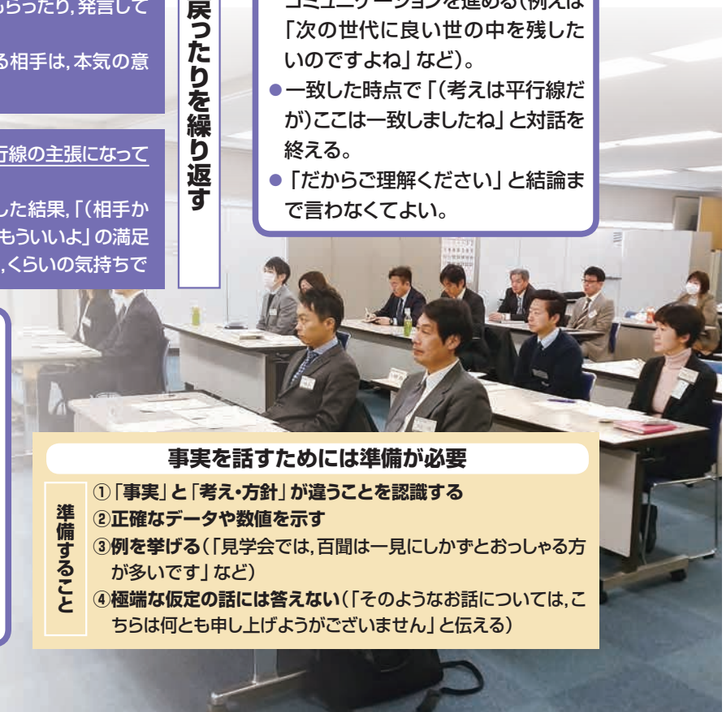
3 説明する
- 「こうなっていますが，どう思いますか」など相手に考えてもらったり，発言してもらう話し方が有効
- 論理的な反論をする相手は，本気の意見を持つ人

4 満足させる
- 結果して，相手と平行線の主張になっても構わない
- 時間をかけて対話した結果，「（相手から）そこまで言うならもういいよ」の満足感や諦めていただく，くらいの気持ちで

①～④の行ったり戻ったりを繰り返す

Point 価値観が同じである（それほど変わらない）ことを訴え，信頼を得る
- 人は，「価値観が自分と同じ」と認知すると，相手への信頼が増す。
- 「必要か不要か」の二択の質問をする方や，「安心･安全のゼロリスク追求」など原子力に不信感を持つ方とは，「価値観の一致」を目指してコミュニケーションを進める（例えば「次の世代に良い世の中を残したいのですよね」など）。
- 一致した時点で「（考えは平行線だが）ここは一致しましたね」と対話を終える。
- 「だからご理解ください」と結論まで言わなくてよい。

Point 事実を話し，結論は委ねる
- 価値観に大きな開きがあったり，利害が対立する相手には，通常の説明では納得は得られない。
- たとえ内容が，法的に，一般常識的に正しいとしても，こちらの考えや方針は相手に心情的なマイナスを与え，「おかしい」，「どうしてそうなっているのか」などの感情的な反論につながる。
- このような状況が予想される場合は，考えや方針ではなく，事実だけを繰り返し伝え，判断は相手に委ねる。



事実を話すためには準備が必要

準備すること
- ①「事実」と「考え･方針」が違うことを認識する
- ②正確なデータや数値を示す
- ③例を挙げる（「見学会では，百聞は一見にしかずとおっしゃる方が多いです」など）
- ④極端な仮定の話には答えない（「そのようなお話については，こちらは何とも申し上げようがございません」と伝える）

理不尽な相手（お客さま）への対応法

責任ある組織として，相手（お客さま）にご理解いただくために最大限の努力をすることは必要です。しかし，明らかに虚偽や非常識な要求･言動をしたり，不当要求※を繰り返すなど，善良とはいえない相手（お客さま）から理解や納得を得ることは事実上不可能です。

丁寧な言葉遣いや接遇面で失礼がないよう心掛け，必要な対応を繰り返しつつ，事実上どこかの段階で対応を切り上げます。

※ 不当要求とは，不当な要求をしてくることではなく，「不当な手段」をもって要求してくる行為です

不当な手段とは？
1. **暴力行為**
   暴力を振るうなど
2. **脅迫行為**
   「俺の言うことを聞かないと殴るぞ!」など
3. **面会の強要**
   「上司を出せ!」などの非常識な要求には，「上司は出しません。私が担当者です」などと断固断る
4. **誹謗中傷，名誉毀損**
5. **業務妨害**

対応方法



1. **警告を発する**
   違法行為，迷惑行為を主張
2. **記録を残す**
   録音は，相手の承諾を得る必要はないが，後の感情論を避けるため，断ってから行うのが良い
3. **複数の社員で対応する**
   危険を感じたら，複数で対応
4. **対応を切り上げる**
   議論が平行線になっている状態を保つことが大切。不当要求の場合は，こちらから議論を断ち切っても構わない。「お引き取りください」と伝える

対話能力をさらに高めていきましょう!

私たちは，こちらにとって都合の良いことを言ってくれる相手を「良いお客さま」，都合の悪いことを言う相手を「あのような人は客ではない」などと分類しがちですが，業務においては，この人のために何ができるか，何をすべきかを考えてみましょう。

「ご意見」として積極的な意味を持たせて受け取れば，そこには相手（お客さま）の気持ちや，社会の変化といった貴重な情報が隠されていることに気づきます。

電力業界だけではなく，昨今の技術に対しては，安全を理解していても不安な気持ちがある方々が多いのが現実でしょう。企業が信頼を得ていくためには，相手（お客さま）の気持ちに寄り添い，全ての社員が誠意を持って正確な情報を提供できるよう，より一層の努力が求められます。

対話能力UPの7つのポイント
1. 相手に伝わる平易な言葉で話すこと
2. 正確な知識･情報を持つこと
3. 中立であること
   （説得の意図を感じさせないこと）
4. 誠実（愚直）であること
5. 信念を持って仕事をすること
   （電気を通じて社会に何をもたらすのか）
6. 信頼できる組織，人になること
7. 難しい案件に関わってこそプロ



◀グループの中で，さまざまな事例を話し合い，対応方法などを共有



▲関根先生がお客さま役となり，実際の対応を想定したロールプレイングを実施

広報･地域交流部では，原子力再稼働への理解活動の充実に向け，今後も原子力に関するコミュニケーションなどの研修を継続して行っていきます。

特集 Feature

東通原子力発電所 再稼働に向けて

～「震源として考慮する活断層」の評価に関する補足調査を実施～

当社は，東通原子力発電所における敷地から敷地周辺の「震源として考慮する活断層」の評価に関して，地質データの説明性向上を目的に今年4月より約半年間の予定で補足調査を行うことを公表しました。
今回は，補足調査に至った経緯やその目的などを，日々審査対応に奮闘する社員の解説と合わせて紹介します。

「補足調査」に至った経緯は？

新規制基準適合性に係る審査会合において，現在，発電所敷地～敷地周辺の「震源として考慮する活断層」の評価などに関する審査が進められているところです。

その中で，2018年10月に開催された審査会合において 当社は一切山東方断層（F-1断層）を代表とした敷地～敷地近傍の断層が，「震源として考慮する活断層」に該当しないことを説明しましたが，原子力規制委員会から地下深部の地質構造の解釈などについて追加説明を求められています。

そこで，当社は，これまで蓄積してきた地質データや関係機関のデータも含めて 既存データ（ボーリング結果，地質データ 岩石資料などの情報）を収集・整理し，対応を検討してきましたが 説明性をより高めるためにデータの拡充を図ることとし，調査範囲をさらに拡大して，反射法地震探査やボーリング調査を実施することとしました。

補足とは

追加調査と呼ばれる大規模な調査ではなく，関係機関も含めた既存データの収集・整理の中で 当社の評価に対する説明性の向上を目的として補完的にデータの拡充を図る調査のこと。



私が解説します



土木建築部
（火力原子力土木）
佐藤 達也 さん

【敷地近傍と敷地周辺の違い（イメージ）】

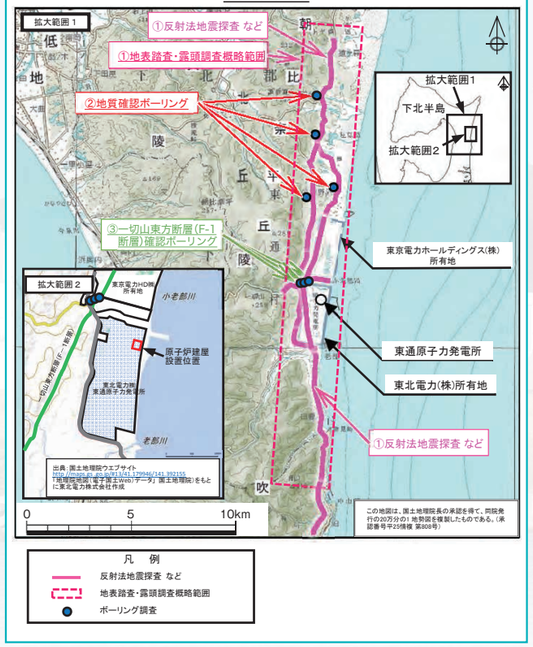


補足調査の調査範囲

地下深部断層について，下表のとおり，①～③の調査を実施します。

	調査項目	調査目的	調査規模
①	反射法地震探査 など	地下深部の地層 基盤の分布などの地質構造を確認	総延長:約40km
	地表踏査・露頭調査	反射法地震探査測線沿いの地表地質状況を確認	反射法地震探査測線およびその周辺の範囲
②	地質確認ボーリング	敷地北方における地質分布，地層・岩相の物性などを確認	4本程度
③	一切山東方断層（F-1断層）確認ボーリング	一切山東方断層（F-1断層）の傾斜などの傾向を確認	3本程度

調査位置図



反射法地震探査とは

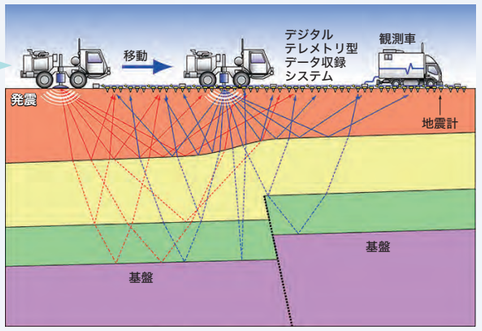
地表で人工的に起震車で発生させた地震波が，地層境界面で反射して，地表へ戻ってきたところを受振器（地震計）で捉え，収録された記録を処理・解析することにより，地質構造に関するデータを取得する調査です。

地下深部の地質構造が把握でき，「震源として考慮する活断層」の有無を確認することができます。



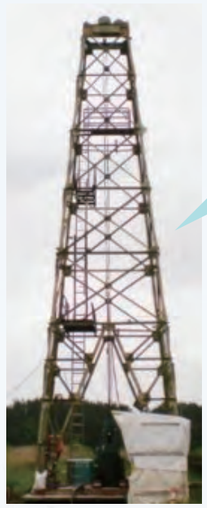
▲反射法地震探査で使用する起震車

【反射法地震深査のイメージ】



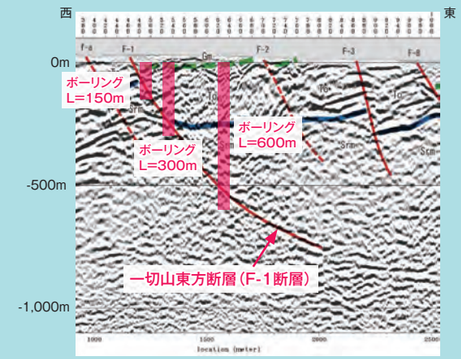
▲受振器を12.5m間隔で設置しておき，起震車が25m間隔で発震（1箇所当たりトータル250秒，1回当たり20秒程度）を行う。1箇所当たりの所要時間は10分程度

ボーリング調査とは



◀ボーリング調査の様子。やぐらの高さは約17mで地中に600mの穴が開けられる

【地質確認ボーリングのイメージ】



▲総延長約3,000m，総本数7本程度のボーリング調査を行う予定

地質に関しては，地層の種類・分布，傾斜・硬さ等の性状，断層に関しては，断層の有無，走向・傾斜，破砕部の性状などを知ることが可能です。

反射法地震探査にボーリング調査のエビデンスを加えることによって，地下深部の地震発生層から地表付近まで連続する断層ではない，言い換えると，地下深部にまで連続する地震を起こすような断層ではない（「震源として考慮する活断層」ではない）とする当社の評価について説明性が向上するものと考えています。

今後について ～補足調査の期間～

調査項目		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
調査準備		■						
①	反射法地震探査 など		■	■				■
	地表踏査・露頭調査		■	■	■	■	■	■
②	地質確認ボーリング		■	■	■	■	■	■
③	一切山東方断層（F-1断層）確認ボーリング		■	■	■	■	■	■

調査期間はおおむね，6カ月を予定しています。

補足調査の期間を考慮しても安全対策工事の完了時期（2021年度中）への影響はないものと考えています。

今回の補足調査の結果を加えることにより，当社の評価に対する説明性の向上に努め，審査会合での当社の考えにご理解をいただけるよう，引き続き丁寧に説明していきます。

お客さまに
より沿う

エグゼムズ(exEMS)徹底解剖!

～当社独自のエネルギーマネジメントシステムに迫る～

2018年11月より本格サービスを開始した「エグゼムズ（exEMS）」は，高圧で電気をお使いのお客さま向けに最適な電気の使い方を支援する当社独自のエネルギーマネジメントシステムです。

空調設備を自動制御する「エグゼムズwithA」，空調設備を含めた複数設備を自動制御する「エグゼムズadvance（アドバンス）」をそれぞれ提供していくことを予定しています。

今後，ソリューションサービスの目玉となるエグゼムズについて，徹底解剖します。

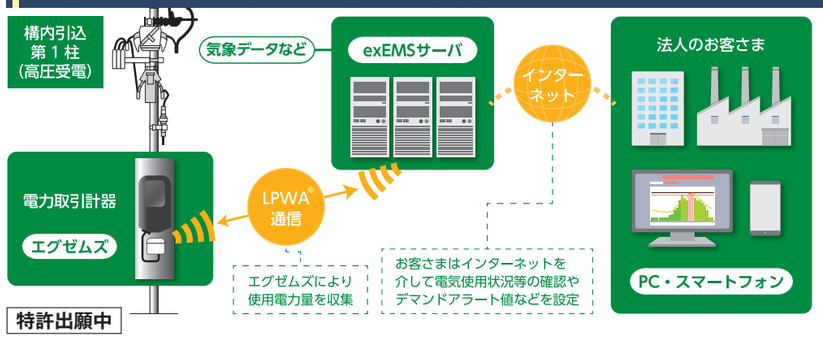
そもそもエグゼムズ（exEMS）ってなに？

exEMS
experience Energy Management Systems

エグゼムズは，デマンド値（需要電力）や使用電力量の変化など，電気の使用状況を見える化することで，お客さまの省エネ・省コストを支援するサービスのことです。

機能名と主なサービス概要	
デマンド監視	当社独自の高精度予測機能を実装。24時間先までのデマンドを管理し，超過する恐れがある場合，事前にメールで通知
電気の使い方グラフ	時間別や日別などのデマンド，使用電力量を表示。期間ごとの電気の使用状況の傾向を把握することができ，省エネ施策の検討に活用可能
節電トライアル（特許出願中）	事前にお客さまが実施する節電行動による節電効果を測定，記録することができ，アラート発生時の迅速な節電行動につなげることができる
省エネ自動アドバイス	お客さまの電気の使われ方に沿った個別の省エネアドバイスを自動的に提供

エグゼムズシステムのイメージ図



特許出願中

お客さまの構内にある引込第1柱などに取り付けられている電力取引計器の付近にエグゼムズの通信機器を設置しています。

過去のデマンド値や気象データを踏まえ，サーバを介して，お客さまへデマンドアラートなどをお知らせします。エネルギーの見える化によって，効率の良い電気の使い方を促します。

※ LPWA（Low Power Wide Area）とは，低消費電力で広いカバーエリアを実現する無線通信方式。エグゼムズでは，LPWA 通信方式の中で，安定した接続環境が整えられる LTE-M 通信を採用した

主な機能 ～デマンド監視・電気の使い方グラフ～

デマンド監視



各時間帯の最大デマンドの実績値・予測値をアイコンで表示し，お客さまにお知らせします

電気の使い方グラフ



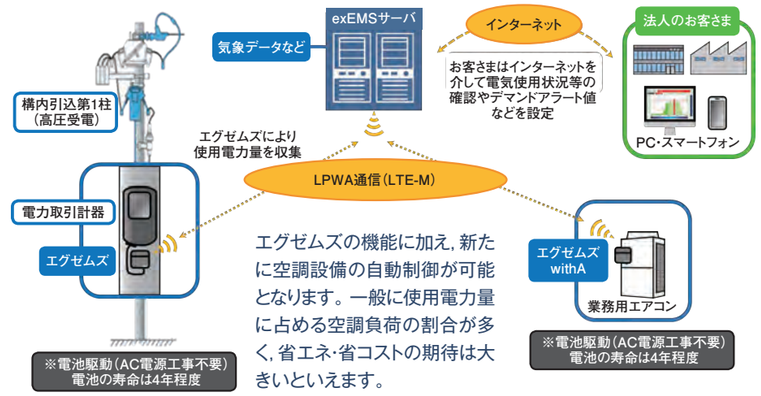
過去のデマンド値や電気料金を，パソコンやスマートフォンで簡単にチェック

新たなサービスも順次提供予定

エグゼムズ withA
2019年上期提供予定



▲複数台の業務用エアコンのデマンド制御が可能となっている



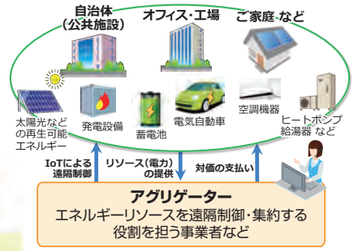
エグゼムズの機能に加え，新たに空調設備の自動制御が可能となります。一般に使用電力量に占める空調負荷の割合が多く，省エネ・省コストの期待は大きいといえます。

エグゼムズ advance（アドバンス）
2019年上期提供予定



無線通信（LoRa※）を採用した制御端末を空調設備以外の照明設備や生産設備に取り付けすることで，空調設備以外の設備の自動制御も可能になります。

※ LPWA 通信の一つで，長距離の伝送が可能であることから工事費が安価となる無線通信方式



▲バーチャルパワープラント（VPP）実証事業において，遠隔制御を行う制御端末，表示画面として活用される見通しとなっている

実際にサービスを提案する支店法人担当者の声

Q お客さまの反応や手応えは？



福島支店
（法人営業）
五十嵐 勝裕 主任

A サービス提供中のお客さまからは，デマンド超過の予測をメールで受信できる機能に高い評価をいただいています。技術スタッフとしては，使用電力量や気温のダウンロードデータを用いた分析など「ひと手間」を加えた提案に有効活用していきます。

A 生鮮品を扱うスーパーでは，夏場のデマンド管理に苦慮されているお客さまが多く，今回「エグゼムズwithA」を設置予定のお客さまからは「業務・コストのダブルで削減が見込める」と喜びの声をいただいております。



宮城支店
（法人営業）
高橋 誠 さん

サービスの開発や運用をしている担当者の声



法人営業部
（ソリューション2）
瀬川 和幸 さん

法人営業部では，現在，エグゼムズwithA，エグゼムズadvance（アドバンス）などのサービス拡充に当たり最終段階に入っています。

さまざまな視点で検討を進めていき，低コストでお客さまのニーズにより沿ったサービス開発に努めていきたいと思います。



▶2019年2月には，支店（法人営業）向けにエグゼムズ設置に伴う勉強会を開催し，仕様などの共有を図った

Topics
資材部

一部業務のアウトソーシング
～2020年4月の分社化を見据えて～

資材部では，2020年4月の法的分離を見据え，これまで以上に効率的な運用を目指して，部内の組織再編や本店集中化などを行ってきました。さらなる効率化施策として，2018年4月より資材契約業務の一部について人材派遣会社にアウトソーシング（外部化＝委託）を始めました。

今回は，本取り組みについて紹介します。

どんな業務を外部化しているの？

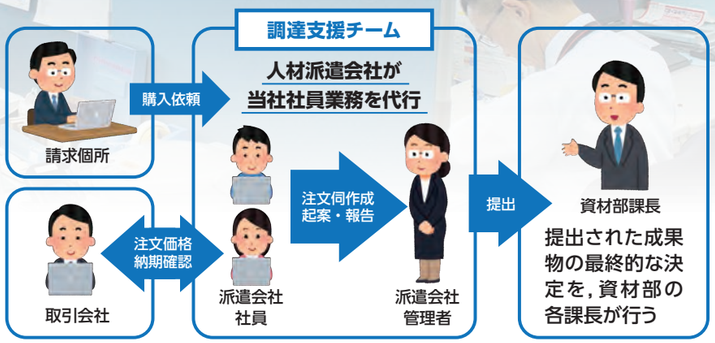
物品購入契約業務をはじめ，処理件数が多く定例的かつ定型的な業務を外部化しています。

対象業務は，以下のとおりです。

- ▶単価契約品等の物品購入契約業務
- ▶技術員派遣業務
- ▶コピー機等の保守契約業務　など

また，委託先では当社社員と同様に業務システム（E15）を使用し，購入請求書の受け付けや注文価格・納期確認などを自ら実施してもらい，当社は最終的に成果物を受け取り確認・決定する形態をとっています。

物品購入契約業務（一例）



注文件数　約12,000件/年

効果や気を付けていることは？

偽装請負の事例



▲人材派遣会社に委託するに当たっては，他にも細かく規定されており，厚生労働省が作成するガイドや資料などを参考に委託会社と連携し，日々改善の有無を確認している

当社社員の定例業務が少なくなり，調達手法の幅広い検討など戦略的な業務に注力することができるようになりました。

一方，労働者派遣とは異なり，委託先社員に直接指示・命令ができないことを踏まえ，提供するサービス水準維持のため，業務手順書を充実させることに留意しました。

また，委託先の管理者から日々，報告書を受領し，適宜協議を行うなどして，円滑な運用に努めています。

手応えと今後に向けて



資材部
（配電・資材契約）
伊藤 昌夫 資材副長

外部化したことにより，調達改革の取り組みや購入計画策定業務に対して十分な検討時間が捻出されたことに手応えを感じています。

今年の4月には第2段階として運送業務や工事請負付託業務の一部などに範囲を拡大し，さらに来年の4月に向けても範囲を広めていきたいと検討を継続しているところです。

効率化だけでなく社員業務の高度化を目指して取り組んでいきます。

調達支援チーム



▲資材部内に人材派遣会社が常駐して業務に従事している

Topics
新潟支店

新潟県と包括連携協定を締結
～「住んでよし，訪れてよしの新潟県」の実現に向けた取り組みを展開～

2月6日，新潟県と当社は，包括連携協定を締結しました。

この協定は，新潟県との緊密な連携・協力関係を深め，新潟県のさらなる発展と県民の皆さまのより良いくらしの実現を図ることを目的としています。

今後は，6つの連携項目に基づき，子育て層・女性層を対象としたイベントや，機会を捉えた交流人口拡大に向けた取り組み，バーチャルパワープラント（VPP:仮想発電所）実証プロジェクトなど，さまざまな施策を展開していくこととしています。





▲花角知事（左）と協定書を手にする原田社長。「花角知事の掲げる『住んでよし，訪れてよしの新潟県』の実現にお役に立てるよう，取り組んでまいりたい」と述べた

締結の背景

新潟県内には，聖籠町にある東新潟火力発電所をはじめ，当社最大の供給力が配備されています。

また，新潟県民の皆さまや企業の皆さまには多くの電気をご利用いただいており，当社にとって新潟県は「電気をつくらせていただく」，「電気をお使いいただく」の両面において，大変重要な地域です。

新潟県のさらなる発展に貢献するためには，地域の課題を熟知している新潟県との連携・協力をより一層強める必要があると考え，検討を重ねた結果，今回の締結に至りました。

新潟県との包括連携協定に基づく当社の取り組み内容

連携協定の内容は，以下の6項目です。この6項目に基づき，新潟県と連携・協力を図りながらさまざまな取り組みを展開していきます。

1. **防災・防犯に関すること**
   ⇒災害時に復旧や医療の拠点となる施設に対する最適な電源の確保に関する相互の検討と訓練の実施
2. **健康・暮らしに関すること**
   ⇒子育て層・女性層を対象とした情報発信やイベントなどの実施
3. **観光・拠点化に関すること**
   ⇒新潟・庄内デスティネーションキャンペーンなどの機会を捉えた東北地域との交流人口拡大に向けた取り組みの実施
4. **エネルギー・産業振興・人口増に関すること**
   ⇒エネルギー有効利用や環境負荷低減，地域防災力の強化に向けた「バーチャルパワープラント実証プロジェクト」の展開
5. **学び・次世代に関すること**
   ⇒次世代支援プロジェクト「放課後ひろば」による取り組みの実施
6. **その他，地域の活性化等に関すること**



▲「新潟県」「新潟日報社」「当社」の3者が共催する子育て層・女性層イベント【2019年3月21日開催予定】



▲燃料電池自動車（FCV）の導入【2019年6月新潟支店に配備予定】

当社は，「住んでよし，訪れてよしの新潟県」の実現に向け，引き続き，地域に寄り添う活動に取り組んでいきます。

1 東北電力

第54回 むつ電力センター 配電課 編

とうほくでんりょくぶんのいち

～「よりそう」現場からのレポート～



今回の主役

お客さまの声に耳を傾け，「納得」を得られるように寄り添う配電マン

むつ電力センター
配電課（工事）
佐藤 航大 さん
平成19年入社
青森県板柳町出身

このコーナーは，業務紹介を通じて社員一人ひとり，業務の一つ一つが東北電力を成していることを感じていただくコーナーです。

本州最北端に位置するむつ電力センター。下北半島特有の気候により，太陽光発電や小形風力発電の設置申し込み件数が多くあります。少人数の利点を生かし，互いに協力しながら電力の安定供給に向けてお客さまに寄り添う配電マンを取材しました。

担当業務の垣根を越え，チームプレーで取り組む

佐藤さんが所属する工事グループは，少人数の5人体制のため，コミュニケーションを図って，互いの業務内容を常に把握し，チームプレーで迅速かつ的確な業務運営に取り組んでいます。



担当業務の垣根を越えて，お客さまからの問い合わせに速やかに対応できるように心掛けている

太陽光発電・小形風力発電の低圧系統連系の申し込み対応

管内には，太陽光発電や小形風力発電の設置に適した土地が多く，発電した電気を配電線に接続する「低圧系統連系」の申し込みが，昨年10月には約1,800件（全店の約18%）ありました。その際，簡易に工事設計などを行える「概算設計ツール」を開発したことで，短期間で効率的に処理することができました。



概算設計ツールを使用し，図面の作成や電柱の本数などを計算する



申込内容や工事方法などが記録された設計書保管棚。約3,300件分の系統連系関連設計書を保管する専用キャビネットを設置

他部門・関係会社・自治体の担当者などと連携を図る

他部門をはじめ，関係会社など，数多くの方々とのコミュニケーションが，工程管理や施工品質，工期に大きく影響するため，小まめな情報共有を大切にしています。



相手の顔が見えない分，電話での説明や打ち合わせでは，分かりやすい言葉で話すようにしている

むつ電力センター配電課の概要

むつ電力センターは本州最北端に位置する事業所で，むつ市，大間町，風間浦村，佐井村，東通村の下北郡全域と上北郡の横浜町，六ヶ所村の一部の1市2町4村を管轄エリアとしています。そのうち，配電課は工事・技術・管理の3グループと大間・白糠のサービスセンターで構成されており，約30人が所属しています。

下北半島は，三方を太平洋・陸奥湾・津軽海峡に囲まれ，広大な土地に強風が吹くため，全事業所の中でも太陽光発電や小形風力発電の設置申し込みが非常に多くありますが，課員一同力を合わせ，お客さまに寄り添いながら，日々，安定供給に努めています。



お客さまの声に耳を傾け，工事方法などを検討する





電柱の新設・移設工事も業務の一つです。最近は，お客さまから敷地借用の承諾をいただけなかったり，緊急輸送道路は原則建柱できないなどの規制もあり，用地確保に向けて粘り強い対応が求められています。常に「より、そう、ちから。」を意識し，お客さまの声に耳を傾け，工事方法などについて複数の提案を行い，お客さまに納得いただけるよう，丁寧な説明を心掛けています。

新設する電柱の設計図を作成するため，距離を測り，図面に記入する

経験豊富な上司に相談しながら，一つ一つ丁寧にチェックする

下北半島縦貫道路開通に向け，電線の地中化工事に取り組む



ケーブル工事の様子

延長68kmの地域高規格道路「下北半島縦貫道路」の工事を行うため，支障となる電線を地中埋設する工事に取り組んでいます。土木工事に関する知識も必要となり，現場に通いながら，1日も早い全線開通に向けて工事を進めています。



自治体，道路工事関係者，工事会社などと常に連携を取り，工事工程がスムーズに進むよう心掛ける

厳しい冬の「万が一」に備える

毎冬，雪害事故を想定した雪上車運転訓練や，山間部での労働災害防止を目的とした雪崩災害訓練を実施しています。普段は設計業務に従事している佐藤さんですが，大型特殊免許を取得し，有事の際は迅速に現場へ駆け付けて復旧作業ができるよう雪上車操作技術訓練に参加して技能向上を図っています。





3日間にわたり行われた恐山での訓練の様子

愛用品はコレ！ 極暖フリース



冬になると下北半島特有の非常に冷たい強風が吹き荒れるため，「極暖フリース」は欠かせません。防風性・保温性に優れていて，見かけるとついつい買ってしまうそうです。

オフタイム まさかり筋トレ部



配電課では，働き方改革の一環として有志による「まさかり筋トレ部」を結成し，終業時間から筋力トレーニングに励んでいます。筋力アップ・心身のリフレッシュに加え，時間外の削減にもなる一石三鳥の取り組みです。



Key Person!!



むつ電力センター配電課
（工事）
八森 広美 副長

佐藤さんには，担当業務の他にもグループ内の業務全般をフォローしてもらっています。

電力高度専門アカデミー1期生としての自覚を持ち，グループ内はもちろん，他グループの若年層やアシストメンバーにも熱い指導・助言を積極的に行ってくれるグループのムードメーカー的存在です。そんな佐藤さんだからこそ，工事会社の方からの信頼も厚く，規模の大きい工事であってもスムーズにやり遂げられるのだと感じています。また，電力高度専門アカデミーで習得した知識を生かし，自分自身のスキルアップとして電圧管理業務，系統運用（操作指令）についても日々，熱心に取り組んでおり，今後のさらなる飛躍を期待しています。



取材MEMO

道すがら，あちらこちらに太陽光発電や小形風力発電が見られ，低圧系統連系対応の多さを実感しました。最北端の事業所らしく，予想以上に風が冷たかったものの，工事グループや他グループ，関係会社の「垣根を越えて」お客さまに寄り添う姿勢には熱いものを感じました。

Topics
環境部

「緑のカーテン運動2019」実施のお知らせ

環境部では，地域のお客さまに環境・エネルギーに対する関心を高めていただくとともに，環境保全に取り組む当社の企業姿勢を広く地域社会へ訴求することを目的に，「緑のカーテン運動」を実施しています。

今年度も，2019年4～9月に本運動を実施しますので，各事業所においては，地域とのコミュニケーションツールとしてご活用ください。

種子の配布について

ゴーヤとアサガオの種子を準備しています。
各事業所には，1月の必要数量調査で報告していただいた数量を，4月中に送付します。

昨年もご協力いただき，ありがとうございました

各事業所における取り組み

種子の活用方法は限定しません。次の事例を参考に，各事業所の判断で自由に活用してください。

活用事例

- 自所構内で栽培する
- 社外対応時に，ゴーヤまたはアサガオの種子を配布する
- 市役所や保育園などと連携し，地域の方々と一緒に栽培活動を行う
- ゴーヤとアサガオのほか，地域の特性を踏まえた品種など，独自に選んだ植物を栽培する

2018年度の各事業所による「緑のカーテン」栽培活動事例


事務所ビルの窓を覆うように設置
（福島発電技術センター）


保育所で子どもたちと一緒に苗植え
（新仙台火力発電所）

Check!

社長表彰における優賞を受賞！ ～ホップを活用した緑のカーテン運動（遠野電力センター）～

2018年度より新たに社長表彰の対象となった「環境活動」の中で，遠野電力センターによる「ホップを活用した緑のカーテン運動」が優賞を受賞しました。

遠野市の特産品であるホップ栽培を盛り上げようと，地域の方々と協働してホップによる緑のカーテン栽培に取り組み，地域との信頼関係強化と当社の企業イメージ向上に貢献したことが高く評価されました。


▲一緒に種まきを行ったまちづくり関係者や中心市街地店舗の皆さま


▲観光地「伝承園」に設置されたホップの緑のカーテン


▲砂子田岩手支店長より岩間所長に表彰状が授与された

活動内容は“エコログ”で紹介します

事業所の活動内容は，ホームページコンテンツ「環境への取り組み通信“エコログ”」で積極的に社外へ情報発信していく予定です。運動実施期間中，ホームページでの紹介を希望する事業所を募集しますので，ぜひ応募ください。



一般参加者を対象とした取り組み

一般参加者に向けて，次の取り組みを実施します。

- ホームページからの応募により，ゴーヤまたはアサガオの種子を配布
- 栽培レポートを募集し，エコログに掲載
- メルマガで栽培のコツに関する情報を発信
- 写真コンテストの開催


講演する山口氏


質問する坂本副社長

平成30年度「東北電力グループ企業倫理・法令遵守トップセミナー」を開催

1月25日

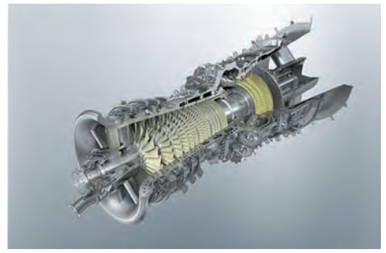
当社・グループ会社役員などを対象に，山口利昭弁護士より「最近の事例から考える企業不祥事の予防策」と題し，講演いただいた。山口氏が実際に携わった企業不祥事の事例等に基づいた講演内容に対し，参加者から「現実的，実践的な話を聞くことができて非常に納得感があった」などの感想が聞かれた

平成30年度優秀省エネ機器・システム表彰 経済産業大臣賞受賞について

2月7日

当社と三菱日立パワーシステムズ（株）が共同開発した，「強制空冷燃焼器システム採用次世代ガスタービン」が，「平成30年度優秀省エネ機器※・システム表彰」で「経済産業大臣賞」を受賞した。今回受賞した次世代ガスタービンは，熱効率および運用性の向上を目的に2007年から共同研究により開発したもの。従来型のガスタービンと比較して，2%の熱効率向上と，起動時間の短縮による運用性向上を実現したことが評価された。2023年6月営業運転開始予定の上越火力発電所1号機に，受賞した次世代ガスタービンを導入予定。ガスコンバインドサイクル発電設備として，世界最高水準となる熱効率63%以上の実現を目指していく


経済産業省 井上製造産業局長より記念の盾をいただく樋口取締役常務執行役員


経済産業大臣賞を受賞した
強制空冷燃焼器システム採用次世代ガスタービン

※ 産業分野における省エネ機器・システムの開発や普及を図ることを目的に毎年実施されており，今回で39回目と歴史のある表彰


大野火力部長から木下氏に感謝状が贈呈された


火力技術継承室リニューアルに伴うテープカット

火力技術継承室資料寄贈への感謝状贈呈式について

2月12日

火力部火力技術訓練センターでは，技術継承を目的として，仙台火力発電所PR館内に「火力技術継承室」を整備し，「火力部門のあゆみ」，「東日本大震災からの復旧」，「技術開発」などをテーマとした資料展示を開始した。今般，木下藤次郎元副社長（故人）ご子息の木下彰氏から発電所建設時の昭和35年ごろの写真など，貴重な資料を寄贈いただいたことから，感謝状の贈呈式を行った。今後も火力部門では，火力技術継承室を活用し，技術力の継承と高い使命感を持った人材の育成に注力していく

平成30年度「エネルギー管理功績者 東北経済産業局長表彰」および「省エネ推進功労者 東北支部長表彰」を受賞

2月14日


左から秋田火力発電所（発電）田村副長，能代火力発電所（発電）浅野発電当直課長，能代火力発電所（運営企画）吉田課長

火力発電所における永年のエネルギー管理推進への貢献などが評価され，当社より3人が，平成30年度東北地域省エネルギー月間表彰式で，「エネルギー管理功績者 東北経済産業局長表彰」※1および「省エネ推進功労者 東北支部長表彰」※2を受けた

＜受賞件名および受賞者＞

○「平成30年度 エネルギー管理功績者 東北経済産業局長表彰」［1人］
能代火力発電所（発電）　浅野 直人　発電当直課長

○「平成30年度 省エネ推進功労者 東北支部長表彰」［2人］
能代火力発電所（運営企画）　吉田 一幸　課長
秋田火力発電所（発電）　田村 富士夫　副長

※1 省エネルギーの意義を理解し，永年にわたりエネルギー管理の推進に尽力し，その功績が極めて顕著であると認められた方を表彰する制度
※2 工場・ビル等の現場，地域，省エネ関連ビジネスなどにおける活動を通じて，わが国の省エネルギーの推進に大きな貢献をした方を表彰する制度



香港の機関投資家と面談する原田社長

海外IRを実施

2月21~22日

原田社長が香港の機関投資家を訪問し，中期経営方針に掲げた目標の達成に向けた取り組みを中心に説明した。投資家からは，電力小売全面自由化に伴う競争状況や原子力再稼働に向けた取り組み，再エネ事業拡大などについて多くの質問をいただいた。外国人投資家の当社株式保有比率が高水準にある中，今後も定期的に海外IRを実施し，当社の経営方針の理解浸透と信頼関係のさらなる醸成を図っていく

東北電力フレンドリー・パートナーズ(株) ロゴマークデザイン募集に係る表彰式を開催

2月8日

東北電力フレンドリー・パートナーズ株式会社（社長＝山本俊二取締役常務執行役員）は，昨年，特別支援学校を対象に募集を行っていた同社ロゴマークの入賞作品を決定し，仙台市で表彰式を開催した。最優秀賞は宮城県立支援学校岩沼高等学園2年の髙橋珠良さんが受賞。作品のデザインには「社名の頭文字Fにハートの形をした葉っぱを組み合わせ，芽生えから始まる成長をイメージした」という思いが込められている。本作品は，今後，同社の記章や印刷物などに活用していく

採用されたロゴマーク


山本社長から表彰状を贈呈


137点の応募から最優秀賞1点，優秀賞3点の4点が選ばれた


玉串奉奠を行う橋本能代火力建設所長


遮断器の投入操作を行う大野火力部長

能代火力発電所3号機の受電式を開催

2月4~5日

能代火力発電所3号機新設工事において，系統から所内電源の受電に当たり受電式を行った。式典には当社および工事関係者約90人が出席し，無事故・無災害での工事の遂行を祈願した。今後は，機器の試運転が本格化するため，引き続き関係者一丸となって，工事を進めていく

宮城支店主催地域振興イベント「“石巻別街道”の観光と地場産品 街道で結ぶうまいもの味めぐり2019」を開催

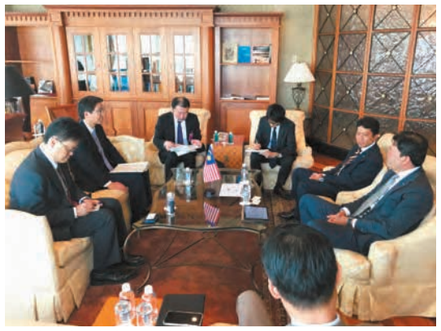
2月5~10日

宮城支店は「“石巻別街道”の観光と地場産品」を東北電力グリーンプラザで開催した。このイベントは，石巻市から涌谷町・美里町・大崎市に至る通称「石巻別街道」（現在の国道108号）で結ばれた4市町の観光PRや地場産品の紹介・販売を通じて，地域振興や復興支援につなげることを目的とし，今回で5回目の開催。期間中は，美里町観光大使M's Japan Orchestraによる和楽器演奏，ワークショップでおひなさまづくりなど，さまざまなイベントでにぎわい，13,648人が来場した



オープニングセレモニー・テープカットの記念撮影。左から，伊藤大崎市長，大橋涌谷町長，武藤宮城県農林水産部長，亀山石巻市長，相澤美里町長，宮本宮城支店長


物産品を買い求める来場者でにぎわった


両社の強い信頼関係をあらためて確認した


売主より，短期LNG売買契約締結の記念品が贈呈された

樋口取締役常務執行役員がペトロナスLNG社との短期LNG売買契約締結記念式に出席

2月13日

樋口取締役常務執行役員がマレーシア・クアラルンプールにおいて，ペトロナスLNG社との短期LNG売買契約の締結記念式に出席した。当社は同社より長期・短期契約を組み合わせてLNGを購入しており，今年度はLNG所要量の約22%を調達予定

（一社）日本電気協会東北支部 平成30年度東北電気関係事業考案・研究発表会を開催

2月19日

（一社）日本電気協会東北支部（支部会長：海輪当社会長）は，（公財）東北電業会との共催により，本店において「平成30年度東北電気関係事業考案・研究発表会」を開催した。東北地域の電気関係事業の技術水準の向上と技術開発の推進などを目的として昭和63年から開催しており，今回は31回目を迎え当社2件を含む合計7件の研究成果が発表された



発表する研究開発センター（電力流通）佐藤 研究主査


齋藤事務局長によるあいさつ


火力発電所の最新の技術開発成果に関する講演


聴講する参加者

平成30年度 火力部門技術開発報告会を開催

1月31日

火力部は，「平成30年度 火力部門技術開発報告会」を本店で開催した。この報告会は，技術開発成果の水平展開・共有化を図ることを目的として毎年開催しているもので，本店，火力発電所，関係会社などからおよそ120人が参加した。報告会では，大型蓄電池の充放電機能活用による火力発電所の運用性向上の研究や，火力発電所撤去工事における作業管理改善の取り組みなど8件の成果について報告され，聴講者による活発な質疑応答が行われた

平成30年度 火力技術競技会（制御保守技術）を開催

2月6日

火力技術訓練センターにて，火力発電所の保守担当者の保守技術力の維持・向上と相互研鑽を目的に火力技術競技会を開催した。制御保守技術としては，3回目となる競技会では，空気流量を調整するベーンなどの駆動装置の測定試験と自動制御装置の保護に関する知識・技能について競った。ベテラン技術者による厳選な審査の結果，最優秀・優秀チームと最優秀個人に大会会長の大野火力部長より賞状とトロフィーが授与され，参加者はさらなる技術向上を確認した



測定試験競技


自動制御装置の保護に関する競技

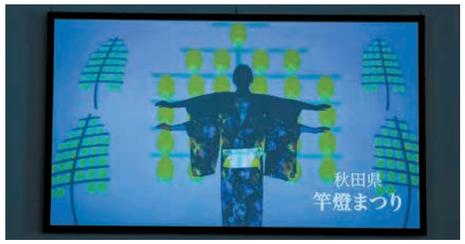


開会あいさつをする
阿部取締役常務執行役員発電・販売カンパニー長

「TOHOKU LOVE 2018 GAKUSEI MOVIE CONTEST」二次審査・表彰式を開催

2月9日

東北6県と新潟県，首都圏の学生を対象に実施した学生ショートムービーコンテストの二次審査・表彰式をせんだいメディアテークで開催した。一次審査を通過した10作品の上映と制作者によるプレゼンテーションを行い，審査の結果，グランプリには東北芸術工科大学の「東北のまつり東北のあかり」が選ばれた



東北芸術工科大学 黒滝惟さんのグループが制作した「東北のまつり東北のあかり」

これらの表彰作品については，特設サイト（https://tohokulove-gakusei-moviecontest.jp/index.html）にて確認できます。MENUの受賞作品からご覧下さい

陸上自衛隊東部方面隊との連携訓練を実施

2月1日

新潟支店および送配電カンパニー新潟支社は，陸上自衛隊東部方面隊との連携協定に基づき，同方面隊隷下の第12旅団との連携訓練を実施した。当日は相馬原駐屯地（群馬県）において，同旅団が所有する大型ヘリに当社の空輸対応型低圧応急用電源車「灯（ともす）」を積載し，実際に飛行を行う検証訓練を実施した。訓練後には，参加した陸自ヘリ部隊との意見交換を行うことで相互理解を深め，災害対応力の向上，および陸上自衛隊東部方面隊との連携強化の両面において，実り深い取り組みとなった



訓練開始前に面談を実施し，「顔の見える関係」の深化を図った。右から，髙野新潟支店長，田尻旅団長，小島新潟支社長



訓練では「灯」を大型ヘリに積載した



看板収め。右から，新田法人営業部長，菅野所長



ご来賓の方と関係者による記念撮影

仙台泉中央熱供給センター閉所式を開催

2月13日

仙台泉中央熱供給センターは，平成31年2月28日をもって組織廃止となるため，お客さまやメーカーなどの関係者をお招きして閉所式を開催した。閉所式では，当社から26年にわたる泉中央地区での地域熱供給事業に対する御礼の意を伝え，ご来賓の方からは，安定した熱供給に対して感謝の言葉をいただいた

長い間ありがとうございました

退職者の方々



原子力部
古川 榮一



送配電カンパニー　岩手支社付
ユアテック 出向
沢山 正和



送配電カンパニー　秋田支社付
ユアテック 出向
清水 宣秀



送配電カンパニー　秋田支社付
通研電気工業 出向
木村 満



送配電カンパニー　福島支社付
ユアテック 出向
茂木 裕治



送配電カンパニー　新潟支社付
ユアテック 出向
会田 利志哉



福島制御所
滝沢 実



いわき電力センター
配電技術サービス課
菅野 拓治

平成31年1月の退職者（敬称略）※所属は退職時のもの

社内テレビ放送



次回放送予定
4月3日(水)～5日(金)

放送時間 9時，10時，12時，12時40分，13時10分，17時，17時30分

都合のよい日時を選んで，ぜひご覧ください。
お問い合わせや，NEWS スクエアへのご意見・ご感想は，
下記の担当者までお気軽にどうぞ。
情報提供・ご投稿もお待ちしています。

佐々木　Tel.910-3030,w129029

編集後記

3月，先輩社員からのススメで海釣りにはまっています。早朝5時ごろから始まり，昼過ぎごろまで魚が釣れるのを待ちます。まだ，10度以下の気温が続いており，海上は風が強いため，寒さを余計に感じます。そこで昼は決まってカップ麺を食べて，身体を温めています。

私は，中でも有名ラーメン店「中本」監修の蒙古タンメンを好んでいます。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが，とても辛いカップ麺です。なぜ人は急に辛い物を食べたくなるのか。辛い物を食べると，アドレナリンやエンドルフィンが脳から分泌されるからです。集中力や運動能力が向上し，血管を広げて，血流を促進するなどの効果が期待できます。ただ，一方で脳を興奮状態にするため，感覚を麻痺させ，痛みを感じにくくする作用もあり，食べ過ぎは禁物のようです。何事も良い面と悪い面があって，バランスが大切です。

BRIDGEでも，毎月，さまざまな情報をバランス良く発信していきますので，引き続きよろしくお願いいたします。

広報・地域交流部（広報・交流企画）千葉　Tel.910-3027,w130165